

コントラスト

作・猿橋 勇人

キャスト

女

天使

デビル

## 1 場

照明、女へのスポットライトのみ。  
足元には封筒。

女

(客席に)「ああ、どっかに大金落ちてないかなあ」なんて考えたことありません？私、いつも考えてました。考えすぎて夜も眠れませんでした。ある日友達が嬉しそうにこう言ったんです。「私い、昨日、500円拾っちゃったあ」：イラツとききました。なんかイラツとききました。「ああ、何で私にそのチャンスが巡ってこないのよ」って、自分の運のなさを実感してみたりもしました。「いつか私だって拾ってやる。絶対に拾ってやるーっ」：そんな気持ちを抱えながら、毎日を過ごしてきました：昨日までは。私、とうとう拾っちゃったんです(封筒を拾う。中身をチラリ、そしてニヤリ)：100万円！  
へえー、それはめでたいねえ。

??  
1

どこからか声が聞こえるが、姿はほとんど見えない(もしくは完全に見えない)。  
ちなみに、??1はデビル、??2は天使となる。

? ? ?  
? ? ?  
1 2 1

じゃあ、その100万円の使い道、一緒に考えようぜ！  
ちよつと何言ってるのよ。あのお金は、交番に届けなきゃいけないのよ。  
そんな力タイこと言うなって。お前だって100万円拾ったらさ、「ちよつとネコババし  
ちゃおうかしら」なんて思うだろ？

? ?  
? ?  
1 2

私は、ちゃんと交番に届けます。  
いや、立場上司う言わなきゃいけないお前の気持ちは痛いほどよく分かるけどさ、お前だ  
ってちよつとぐらいは自分のものにしたたって：

? ?  
? ?  
1 2

「ああ、これで欲しかったもの全部買えるわあ」って：

? ?  
? ?  
1 2

「あっ、そうだ！これで両親に何かプレゼントでもしようかしら」って：

? ?  
? ?  
1 2

「届けません！あっ、いや、両親に何か買ってあげたいとは思うけど、100万円はちゃん  
と届けます。」

女 ? ?  
? ?  
1 2

いや、だけどお前だってやっぱりさ：  
うるさい！

声、静まる。

女

? ? ?  
? ? ?  
1 2 1

いい加減、出てきたらどうなのよ。さっきから私の100万円のことでああでもないこう  
でもないって：

? ? ?  
? ? ?  
1 2 1

正確に言うとお前の100万円ではねえんだけどな。  
あら、たまにはいいこと言うわねえ。

女 ? ?  
? ?  
1 2

「だろ？俺だっただまにはいいこと言うんだよ！  
つべこべ言ってるんで早く出てきなさい！  
（? ? ? 1に）ねえ、どうするのよ。」

? ? ?  
? ? ?  
1 2

いや、どうするもこうするもよ、あいつの怒り方尋常じゃねえぞ。

? ? ? ? ? ?  
 ? ? ? ? ? ?  
 2 1 1 2 1 2  
 …どうしても出なきやダメ？  
 こうなったらもう仕方ねえだろ。俺はいつでも出られるぜ。  
 私だって、準備できてるわよ。じゃあ、「せーの」でいくわよ。  
 おう。  
 (同時に)せーのっ  
 (同時に)せーのっ

全体に照明がつき、声の正体が明らかになる。

? ? ? ? ? ?  
 ? ? ? ? ? ?  
 1 2 1 2

こんにちはー。  
 よっ。

…こんなこと聞くのもアレなんだけど、あんた達、何者？

…(???)1に)あなたから言いなさいよ。

(???)2に)お前から言えよ。レディファーストだろが。

そのレディファーストの使い方おかしいでしょ。男なら男らしく堂々と名乗りなさいよ。

お前な、悪役のこの俺が律儀にあいさつなんてできるわけねえだろ。

別にいいじゃない。律儀な悪役だなんて、斬新でいいじゃないの。

そんな斬新さは俺には必要ねえんだよ…

そんなことどうでもいい!(???)1に)ほら、あんたから言いなさいよ。

お前、俺達の話聞いてたろ？俺から名乗るわけにはいかねえんだって…

いいからさっさと言いなさいよ!こんなくんだりで時間つぶしてる場合じゃないの。

…仕方ねえなあ。どうも、デビルです。

…私、天使と申します。

…ふざけてるの？

いや、そんなつもりねえよ。  
 そうよ。れっきとした天使とデビルよ。

女 ? ? ? ? ? ?  
 デビル ? ? ? ? ? ?  
 天使 ? ? ? ? ? ?  
 2 1 1 2 1 2

女 天使とデビル…天使と…デビル…なんか違和感あるわね。  
 天使 でしょ？でも仕方ないのよ。「俺はデビルだ」って彼が言い張るから…  
 デビル 別にいいじゃねえかよ。俺はデビルだ。あくまでもデビル…別に掛けたわけじゃねえぞ。  
 女 天使…何か私に用でもあるの？あっ、もしかして、この100万円？  
 天使 そうそう、その100万円をね…ってどうして分かったの？  
 女 デビル さっきでっかい声でケンカしてたでしょ。  
 デビル 聞こえてたのかよ。  
 女 当たり前でしょ！  
 天使 ……今更だけど、私達のこと見えてるんだ。  
 女 うん。  
 デビル 珍しいなあ。  
 女 そうなの？  
 天使 ほとんどの人間はね、私達がいることすら気付かないの。  
 デビル まあだいたい、一億三千万人に一人が気付けばいいほうかな。  
 女 へえ…って日本で私だけじゃない！  
 天使 まあ、彼の言ってることは置いといて、それくらい珍しいってことなのよ。  
 女 そうなんだ…まあ別に見たくもなかったけど。  
 天使 そんな寂しいこと言わないでよ…  
 デビル おい、もういいいだろ説明はよ。毎回毎回めんどくせえ。  
 天使 そんなこと言っちゃダメでしょ。「いきなり理解しろ」って言うほうがおかしいわよ。あ  
 女 そう、俺はデビル。あくまでもデビル。  
 デビル あんた、そのフレーズ気に入ってるでしょ。  
 デビル ……ちよつとな。

転換。

## 2 場

デビル

お前さ、その100万円どうすんの？

天使

どうするもこうするもないでしょ。ほら、交番に行きましょ。

デビル

そんなに焦るなよ。で、その100万円どうすんの？もう使い道決めてんだろ？お前、あれだけ「拾いたい拾いたい」って言ってたもんな。

女

いや、まだ決めてないけど。

デビル

なんだよ。お前それくらい考えとけよ。

天使

ちよっと期待してたのに。

女

何であんたが期待してたのよ。まあ確かに、「拾いたい」とは言ってたけど、まさかこんな大金拾うなんて思わなかったから。

デビル

じゃあお前、今のところノープランなわけ？

女

うん。

天使

もうそれだったらさっさと交番行きましょよ。

デビル

だからそんなに焦るなって。俺にも仕事させろっつもの。

天使

あなたの仕事なんてどうせろくなもんじゃありませんよ。

デビル

そんなこと言うなって。俺だっていろいろ勉強してるんだぞ。

女

ちよっと待ってよ。なんか勝手に話進めてるけど、これをどうするかは私の勝手じゃないの？あんた達関係ないでしょ。

天使

だからそれはあなたのものじゃないって言ってるじゃない。

女

でもあんた達のものでもないでしょ？拾ったのは私。どうするかは私の勝手よ。

天使

(デビルに)ねえ、あなたにお願いするのも変なんだけどさあ、あなたからも何か言っ

てよ。

デビル

まあ、確かに俺達や関係ねえよなあ。

天使　ちよっと、あなたまで何言ってるのよ。  
 デビル　お前の言うとおりさ。その100万円、煮るなり焼くなりお前のしたいようにすればいい  
 女　　じゃんか。  
 デビル　言われなくてもそうするわよ。  
 女　　言われなくてもそうしろよ。  
 デビル　あんた達が勝手に口出ししてきたんでしようが！ほら、早く帰ってよ！  
 デビル　：それは、できない。  
 女　　：は？  
 デビル　（天使に）おい、そうだよな？  
 天使　：彼の言うとおり、私達、帰れないの。  
 女　　何だよ。  
 天使　何でって？それは言えない。  
 女　　言いなさいよ。気になるじゃない。  
 天使　じゃあ気にしないでよ。  
 女　　なるから仕方ないでしょ。気にしてるんじゃないの。気になるのよ。  
 天使　：誰にも言わない？  
 女　　言わない言わない。私、口の堅さだけは誰にも負けたことないんだから。  
 天使　（デビルに）ねえ、話してもいい？  
 デビル　：まあいいんじゃない？別に大したことじゃねえし、俺関係ねえし。  
 天使　何言ってるのよ、ばれたときは連帯責任でしょ。  
 デビル　：いい言葉知ってるんのお前？ほら、言うなら早く言っちゃまえよ。  
 女　　：あのね、私達が帰れないその理由はね？  
 女　　：その理由は？  
 天使　コマーシャルの後で？  
 女　　そんなのいらぬから早く言いなさいよ。  
 天使　あなたノリ悪いわね？まあいいわ。私達ね、（女に耳打ちする）

女 (大声かつ説明口調で) えっ! 私がこのお金を持ち続けている限り、あんた達永遠に帰れないの?  
 天使 (慌てて) バカ、声大きい。  
 デビル : お決まりのパターンだな。  
 女 : マジで帰れないの?  
 天使 残念ながら、マジなの。  
 女 : 私がおばさんになっても?  
 天使 そういうことになるわね。  
 女 : 面倒くさいシステムね。  
 デビル 仕方ねえだろ。俺達だってどうにもできねえんだからよ。  
 天使 そうよ。私だっていろいろあるんだから:  
 デビル お前、このあと何かあるのか?  
 天使 いや、別にないけど:  
 デビル どうせ合コンか何かだろ?  
 天使 (ビクツとして) 何だっていいじゃない。  
 デビル 今度の相手は誰だ? また医者か? お前は理想が高すぎるんだよ。  
 天使 こんなところで話すことじゃないでしょ! この仕事だっていつまで続けられるか分からないんだし、いつかは私だって幸せな家庭を:  
 女 うるさい! あんたの理想なんかどうでもいいわよ! ああほんと面倒くさい。  
 天使 : なんか、ごめんなさいね。でもこれが私達の仕事なのよ。  
 女 : で、これからどうするの? 出てきたからには何かするんでしょ?  
 天使 : : : いいえ。  
 女 は?  
 天使 まあ、しいて言えば、口出ししに来たってところね。  
 女 : : : それだけ?  
 天使 : : : それだけ。

女 デビル …… あんた達、邪魔なだけね。  
 (女に) おい! …… そんなにほめるなよ。  
 女 デビル ほめてないわよ。ああ邪魔くさい。  
 天使 まあそんなこと言わないで、ちよっとの間よろしくね。  
 デビル そうそう、医者との合コンはいつだってできるし…  
 天使 何言ってるのよ。医者ってなかなかスケジュール合わなくて大変なんだから… っでだから  
 ここで言う必要ないでしょ!  
 デビル お前が勝手に言ってるんだろ。  
 天使 言わせるあなたが悪いのよ。あなた、そういうところもデビルね。  
 デビル そう、俺はデビル。あくまでもデビル。下から読んでもデビル…  
 女 それは違う!  
 デビル …… 最後まで言わせろよ。

転換。

### 3

### 場

天使 ねえ、それ早く交番に届けましょうよ。  
 女 あんたの合コンのために?  
 天使 そうよ… っでそうじゃないわよ。天使としての純粋な気持ちよ。  
 女 どうだかね。  
 天使 …… (デビルに) あなたが変なこと言うから。  
 デビル 別に変なことじゃねえだろ。ドキュメントだろうが。  
 天使 何がドキュメントよ。(女に) ほら、交番行きましょ。  
 女 やだ。



天使 …… あなたもなかなか頑固ねえ。  
女 頑固でけっこうよ。誰が届けるもんですか。  
天使 …… (ひとり言) この子なんかむかつくわ！  
デビル (天使に) おい、そろそろいいんじゃないかねえか？  
天使 …… 仕方ないわね… いいわよ。  
女 …… え？ 「いいわよ」って、これから何かあるの？  
デビル いや、交代するんだよ。  
女 …… 交代？  
デビル 今度は俺が、お前にいろいろ口出しする番よ。覚悟しとけ。  
女 …… はあ… っていうか、交代とかあるんだ。  
デビル 多分このほうがお互いやりやすいんだよ。(天使に) な？  
天使 そうなのよ。多分このほうが話すほうも聞くほうも分かりやすくっていいのよ。  
女 …… 「多分」ってどういうこと？  
天使 …… さっき話し合って決めたのよ。このやり方でやってみましようって…  
女 …… あんた達も、いろいろ大変なのね…  
デビル …… まあ、そういうことだからよろしくな。

天使、しばし休憩に入る。

女 「いやだ」って言っても、どうせ聞かなきゃいけないんでしょ？ まあいいわ。とりあえず  
デビル あんたの話聞かせてよ。  
女 お利口さんでいいねえ。あとでキャンディー8年分あげるよ。  
デビル そんなにいらないわよ。  
女 遠慮すんなって。お前13度のメシよりキャンディー好きだろうが…  
デビル そんなにメシ食わないわよ！ なんか、あんたと話していると疲れるわね。  
デビル そんなにほめるなよ。

女 デビル ほめてない！……ってだから早く始めなさいよ！  
 デビル まあそんなに焦るなって。俺だっているいろいろ準備があるんだからよ（メモを取り出す）。  
 女 よし、準備OK。  
 デビル 準備早いわね。  
 デビル 話始めてもいいか？  
 女 切り替えも早いわね……  
 デビル いいか？  
 女 ああ……どうぞ。  
 デビル お前さ、プレゼントなんてしたことがあるか？  
 女 ……プレゼント……そういえば、友達の誕生日のときにお金出し合って1ホールのケーキ買ったことあるけど……  
 デビル ……なかなかいい作り話じゃねえか。  
 女 作ってないわよ！これこそドキキュメントよ。あんたちゃんと話聞く気ある？  
 デビル わりいわりい。で、他に何かそういうエピソードないの？  
 女 ……他……  
 デビル ……例えばよ、好きな人に何か買ってあげたとかあるだろ。  
 女 ……（あからさまにドギマギ）好きな人なんて……いないわよ……  
 デビル ……隠すなよ……っていうか、隠れてないけどな。  
 女 ……うるさいわね。私だって好きな人の一人や二人ぐらいいてもおかしくないでしょ……  
 デビル ……二人もいるのか？  
 女 ……揚げ足取ってないで話進めて！  
 デビル ……そんなに怒るなよ。で、お前そいつに何かプレゼントしたことがあるか？  
 女 ……ない。  
 デビル ……じゃあその金使って何かプレゼントしたらどうよ。そんでもってよ、ついでに告白  
 女 ……いきなり？

デビル 別にいいじゃねえかよ。  
女 だって、話だってほとんどしたことないのよ。  
デビル 告白なんてもんはな、勢いなんだよ。  
女 だとしても、いきなり過ぎるでしょ。  
デビル 言っとくけどな、こんなチャンスなかなか巡ってこねえぞ。  
女 プレゼントするって言ったって、何をあげたらいいんだか……  
デビル 思いつかないんだったらよ、そのままあげちゃえば？  
女 はあ？（想像する）

暗転。

#### 4 場

明転。告白の風景となる。  
デビルは告白される相手になる。

女 ごめんね金剛地（こんごうじ）君、こんなところに急に呼び出しちゃって。  
デビル いや、別にいいんだけどさ、できれば早くしてくんない？部活行かなきゃいけないから。  
女 ああ、ごめん！金剛地君、今日誕生日だよね。  
デビル ああ、そうだけど。  
女 ……誕生日、おめでとう！（封筒を差し出す）  
デビル ……（封筒を指差し）それ、何？  
女 誕生日プレゼント。金剛地君に。  
デビル ……ああ、もらっていいの？  
女 ぜひ！

デビル ……ありがとう(受け取る)。中、見てもいい?  
 女 ……ぜひ! ……喜んでくれるかどうか分からないけど…  
 デビル (中身を見る) ……  
 女 ……どう?  
 デビル ……とりあえず……すごい……生々しいね。  
 女 ……生々しいの嫌いだった?  
 デビル いや、そういうことじゃなくて……っていうか、これ、どうしたの?  
 女 ……そこは気にしないで。  
 デビル いや、そこが一番気になるんだけど。  
 女 ……それより金剛地君、もう一ついい?  
 デビル ……何?  
 女 ……私と付き合ってください!  
 デビル ……ごめん。俺、他に好きな人いるからさ……君とは付き合えないよ……あと、これは受け取  
 女 ……れないよ(封筒を返そうとする)。  
 女 ……えっ! どうして? 金剛地君やっぱ生々しいの嫌いだった?  
 デビル ……だからそういうことじゃなくてさ……こんなこと言いたくないんだけど、なんか、怖いよ。  
 女 ……どこが怖いよ。  
 デビル いや、気持ちはありがたいんだけどさ、こんな大金受け取れないよ。  
 女 ……いや、これだけは受け取ってよ。私の気持ちだから。  
 デビル いやいや、その気持ち、今の俺には重過ぎるよ。君のこと振っておいて、これだけもらっ  
 女 ……て帰るなんて、君に悪いよ。  
 デビル ……そんなの気にしなくていいから。  
 女 ……気になるって! 気にしてるんじゃないよ……とりあえず、これは返すよ(返  
 女 ……す)。俺、部活行かなきゃいけないし……じゃあね(帰る)。  
 ……金剛地君……

暗転。

## 5 場

明転。3場の続きである。  
女、ちよっと疲れ気味。

女 (想像終わり) …絶対ダメ。  
デビル 何でだよ。いい考えじゃねえか。  
女 どこがいい考えよ。お金渡してから告白するなんて、高校生の私にどんな取引させるのよ。  
デビル それじゃあ告白してから金渡したら？  
女 それもダメ！「私と付き合ってくれたらもれなく100万円あげちゃいますキャンペーン開催中！こちらの宛先まで、どんどん応募してね！」なんて言えるわけないでしょ。  
デビル そこまでは言ってるねえよ。  
女 とにかく、これ使って告白なんてできないわよ。絶対できない。  
デビル ……(天使に)おい、交代。ちよっと疲れた。  
天使 お疲れさま。どう？手応えあった？  
デビル ……手応えはなかったけどよ、敗北感はたっぷりあったぜ…とりあえずちよっと休むわ。  
天使 どうぞご自由に。  
デビル、しばし休憩に入る。

天使 (女に)じゃ、よろしくね。  
女 あのさ、私に休憩しないの？  
天使 別になくてもいいじゃない。あなたは話聞いているだけでいいんだから。

女 天使 いや、なんか私もちょっと疲れたんだけど…  
 女 天使 ……何で？  
 女 天使 ……私もよく分からないんだけど…まあとりあえず、あんたの話聞かせてよ…って言っても、  
 天使 どうせ「交番に行きましょ」ってしか言わないんでしょうけど。  
 天使 けっこう痛いところ突くわね。でもそれだけじゃ今は天使なんて仕事やってられないの  
 女 天使 よ。私もあらゆる手を使ってね…  
 女 天使 ……使って？  
 女 天使 あなたを交番に行かせる。  
 女 天使 結局そうなるんだ。  
 女 天使 結局そうなるのよ。だから、交番行きましたよ。  
 女 天使 やだ。  
 女 天使 そんなに早く拒否されると逆にスッキリするわね。  
 女 天使 じゃあそのままスッキリ帰ったらいいじゃない。  
 女 天使 一回説明したでしょ。それができないからここにいるのよ。あなただってスッキリしたい  
 女 天使 でしょ？だから、交番行きましたよ。  
 女 天使 やだ。  
 女 天使 ……あなたのものになるかもしれないの？  
 女 天使 え？  
 女 天使 あなたも知ってるかもしれないけど、交番に落とし物を届けたのにもかかわらず、いつま  
 女 天使 でたってもその持ち主が現れないときはね、拾った人がそれをもらってもいいことにな  
 女 天使 ってるのよ。  
 女 天使 そんな感じのことチラッと聞いたことはあるけど。  
 女 天使 昔ね、十億円拾った人がいたのよ。  
 女 天使 十億円も？  
 女 天使 その人はそれを交番に届けたのよ。でもね、十億円の持ち主は結局現れなかったの。  
 女 天使 ……ってことは？

## 6

## 場

天使 その十億円、全部拾った人のものになったのよ。

全部！

天使 そう、全部よ！全部！すごいと思わない？

女 すごい。

天使 ちなみにね、その人に交番に行くのを勧めたのって、私：

女 それもすごいわね。

天使 の、上司：

女 何よ。ビックリして損した。

天使 の、だんなさん。

女 もはや天使でもないじゃない。

天使 まあそういうことだからね、とりあえず交番に届けるだけ届けてみたら？もしかしたら

女 あなたのものになるかもよ？

女 ……どれくらい待てばいいの？

天使 待って？

女 だから、交番に届けてからどれくらい待ってれば私のものになるのよ。

女 3ヶ月。

女 3ヶ月！（想像する）

暗転。

明転。天使、ナレーターを務める。  
天使のナレーションに合わせて女は動く。

天使

女

天使

女は待ち続けた。そのときが来るのを心静かに待ち続けた。いや、心静かになんて待って  
いられるものか。冷静を装ってはいたが、心は揺れていた。プルプル揺れていた。なんて  
言ってるうちに、お腹がすいてきた。ちよつと何か食べようかしら、そういえば冷蔵庫に  
プリンがあったはず、でもフタにお姉ちゃんの名前が書いてあったっけ。それじゃあコン  
ピニでも行って何か買ってこようかしら。でもあのコンピニって最高に品揃え悪いのよ  
ね。なんて考えている間にも時間は過ぎていく。今日はあの日からちようど3ヶ月。ドキ  
ドキして夜も眠れなかったし朝も起きられなかった。ムリヤリ心を落ち着かせ、連絡を待  
つ。それにしても、何でこんなにお腹がすくのかしら。もうこうなったらお姉ちゃんのプ  
リン、食べちゃおうかしら。あとでお姉ちゃんに怒られたってどうってことないわ。でも  
お姉ちゃん、怒ると怖いよね。ネチネチネチ怒るあの感じ、ズシンときちやうのよ。  
小一時間は立ち直れないのよね。でもやっぱりプリン食べたい。プリン、100万円、プ  
リン、100万円、プリン、プリン、100万円、プリン、プリン、プリン、プリン、プリン（電  
話が鳴り、緊張する）：とうとう来た：あれ、何でこんなに緊張してるんだろ：とりあえず、  
落ち着け、私：  
（電話に出る）：もしもし：はい、そうです：はい：はい：はい：えっ！：ああ：そうですか：  
それはよかったですね：はい：わざわざありがとうございます：はい：失礼します（電話  
を切る）：  
：ちつくしょう！名乗り出やがった持ち主！何で今日の今日まで名乗り出なかつた持ち  
主！普通100万円なんて大金落としたらすぐに気付くだる持ち主！どんだけ金に疎いん  
だよ持ち主！それともあれか持ち主！「100万円ぐらい落としたり何の問題もないぜ  
」ってか持ち主！ああなんて憎たらしいんだ持ち主！もうこうなったらお姉ちゃんのプリ  
ン食べてやる！ついでにお父さんの柿の種も食べてやる！ついでのついでに冷蔵庫の中  
にある冷凍食品、全部ご近所さんにおすそ分けしてやる一っ！：さよなら、私の青春：

暗転。



7  
場

明転。5場の続きである。  
女、けっこう疲れている。

(想像終わり)：そんなに待てない。

女 天使 いや、あなたなら大丈夫よ。3ヶ月なんてけっこうあつという間なんだから。  
女 天使 だとしても、その間に持ち主が出てきたらどうにもならないじゃない。

女 天使 それはそうだけど、もしかしたらその持ち主が、「ありがとう、ほんとに助かったよ」と  
女 天使 言っていて、あなたに1割ぐらくれるかもしれないわよ。100万円の1割って言ったら  
女 天使 10万円よ、10万円。なかなかのものでしょ？

：なんか損した感じするんだけど。

：どこが損なのよ。そういうこと言っちゃ怒られるわよ。

誰から？

女 天使 あなたのご両親が黙っちゃいないでしょう。「それでも私達の娘か！」って：

女 天使 そんなこと言われる？

女 天使 当たり前じゃない。他にもいろいろ言われるわよ。「おととい来やがれ！」とか「お前は私  
女 天使 達のほんとの子供ではないんだ」とか：

：それは、日を改めて話し合いたいわよ：っていうか、なんか話ずれてない？

：ああ、そういえばそうね。ごめんさい。で、どこまで話したっけ？

女 天使 なんかもう、私もよく分かんなくなってきたんだけど、確か、1割もらえるかもしれない  
女 天使 ところまで話したんじゃないの？

：私もうそこまで話したっけ？それならもう言うことはひとつしかないわよ。

：何？

：交番行きましょ。

女 やだ。  
天使 …マジで？  
女 うん。  
天使 …マジで？  
女 マジで。  
天使 …(デビルに)交代。もうダメ。  
デビル お前にはよく粘ったじゃねえか。  
天使 どうもありがとう。でもあの子、筋金入りの頑固だわ。なかなか手強いわよ。  
デビル まあ俺はそのほうがやりがいがあるといいけどな。まあ、とりあえずゆっくり休んどけ。  
天使 …そうするわ。

天使、しばし休憩に入る。

デビル お疲れさん。(女に)じゃ、改めてよろしくな。準備するからちょっと待ってるよ(メモを取り出す仕草)。  
女 あの、ちょっと待って。  
デビル どうした？  
女 私も、休憩欲しいんだけど…  
デビル …何で？  
女 何でって…私も、ちょっと疲れたから…  
デビル …何でお前が疲れてんの？さっきから俺達の話聞いているだけでお前ほとんど動いてねえじゃんか。  
女 いや、私も不思議なのよ。あんた達の話聞いているだけなのに、なんかグツタリきているのよ。だから、ほんとにちょっとでいいから休ませて。  
デビル …じゃあ、ちょっと待ってる。(客席に)おい、この女にちょっと休憩を与えてやってもいいぞって思ってる奴、スイッチ・オン！

女 デビル 誰もスイッチ持っていないわよ。  
女 デビル マジで？ てつきりみんなスイッチ持ってるもんだと思ってたぜ。  
女 デビル 何よその先入観？ っていうか、みんなの許可がないと休めないの？  
女 デビル まあ、一応念のために確認しといたってだけさ。  
女 デビル 何のための念のためよ？ で、私休んでいいの？  
女 デビル 別に構わねえよ。でもあまり時間はやれねえぞ。  
女 デビル 分かった（休憩に行こうとする）。  
女 デビル ああ、それともう一つ。  
女 デビル （立ち止まり）何？  
女 デビル 逃げたってムダだからな。  
女 デビル 別に逃げないわよ。

女、しばし休憩に入る。

天使 デビル （デビルに近づき）ねえ。  
天使 デビル どうした？  
天使 デビル ちょっと話があるんだけど。  
天使 デビル 今じゃなきやダメか？  
天使 デビル うん、できれば今のうちに話しておきたいんだけど。  
天使 デビル で、何？  
天使 デビル まあ、話っていうか、お願いなんだけど。  
天使 デビル だから、何？  
天使 デビル 私に、協力してくれない？  
天使 デビル ああ？

転換。

8  
場

デビル お前さ、自分の言ってること分かってんのか？  
天使 分かってるわよ。  
デビル 交番に行かせるのはお前の役目だろが。俺の仕事じゃねえだろ。  
天使 それも分かってる。でも、私だけじゃどうにもならない。  
デビル それをどうにかするのがお前の仕事だろ。  
天使 それができそうにないからお願ひしてるのよ。  
デビル 合コンか？  
天使 そんなじゃないわよ。そんなんじゃ…  
デビル ……もしかして、上から何か言われたのか？  
天使 ……今から言うこと、誰にも内緒よ。  
デビル 俺が言うわけねえだろ。  
天使 あなた、そういうところは律儀なのよね。  
デビル いいから早く言えって。何て言われたんだよ。  
天使 ……今度交番に行かせられなかったら、クビだ…  
デビル ……そういうことか。  
天使 だからお願い。協力して。  
デビル デビルのこの俺にねえ…  
天使 あなただからお願いしてるのよ。他の悪魔にだったらこんなお願いしてない…  
デビル おい…悪魔じゃねえよ。  
天使 ……他のデビルにだったらこんなお願いしてないわよ。あなただったら聞いてくれると思  
て…  
デビル ……分かったよ。でも今回だけだぞ。

天使 ……ありがとう。  
デビル ……で、何か考えてきたのか？  
天使 ……一応ね。  
デビル ……じゃあちよっと聞かせろよ。時間もねえからパツパとな。  
天使 ……分かった。じゃあまず…  
デビル ……(慌てて)おいちよっと待て。(客席に)この先は、企業秘密ってやつだよ。  
天使 ……(客席に)ちよっとごめんなさいね。

暗転。

## 9 場

明転。女、休憩中である。  
缶ジュースを持っている。  
女、ジュースを一口飲む。

デビル (姿が浮かび)使っちゃまえよ。

デビル、姿が消える。  
女、ジュースを一口飲む。

天使 (姿が浮かび)交番に行きましょう。

天使、姿が消える。  
女、ジュースを一口飲む。

デビル (姿が浮かび)使っちゃまえよ。

デビル、姿が消える。  
女、ジュースを一口飲む。

天使 (姿が浮かび)交番に行きましょ。

天使、姿が消える。  
女、ジュースを一口飲む。

デビル (姿が浮かび)俺にくれ。  
女 (ひとり言のように)あげるわけないでしょ。

デビル、姿が消える。  
女、ジュースを一口飲む。

天使 (姿が浮かび)合コンに行きましょ。  
女 (ひとり言のように)目的変わってるじゃない。

天使、姿が消える。  
女、ジュースを一口飲む。  
天使・デビル、同時に姿が浮かぶ。

デビル (同時に)使っちゃまえよ(繰り返し返す。だんだん口調が荒くなる)。  
天使 (同時に)交番に行きましょ(繰り返し返す。だんだん口調が荒くなる)。

女  
（イライラして）うるさい！

天使・デビル、同時に姿が消える。  
女、ジュースを勢いよく飲み干す。  
暗転。

## 10場

明転。女が休憩から戻ってくる。  
舞台上にデビルはいない。

女  
あれ、あいつは？

天使  
ああ、なんか「脂が浮いてきたからちよっと抑えてくる」とか言っていて、どっか行っちゃった。  
女  
：今更気にしたってしようがないと思うけど……

デビル、戻ってくる。  
こっそり様子を見ている。

天使  
まあそんなことはどうでもいいから、さっさと話進めましょうよ。

女  
いや、あいつの番じゃなかったっけ？

天使  
そんな細かいこと気にしないの。いなくなるほうが悪いんだから。ね？

女  
：あんたもけっこう悪いわねえ。

天使  
ほめ言葉として受け取っておくわ。じゃあ早速本題に入りましょ……  
デビル  
（天使に）おい、お前何やってんだよ。

天使 …… いや、別に何もしてないわよ…

デビル もしかしてお前、順番無視してこの女にいろいろ吹き込んでたんじゃねえのか…

天使 そんなことするわけないじゃない…

デビル ウソつくんじゃないやねえよ。この目でちゃんと見てたんだからな。

天使 …… 魔が差したのよ。

デビル そんな定番の言い訳聞きたくないね。ふざけんじゃねえよ。

天使 ごめんなさい。

デビル …… なんかもうどうでもよくなかったぜ。(女に)おい、お前もその金どうするかさっさと決めるよ。俺だってな、こんなところで時間つぶしてる暇ねえんだよ。ほら、どうするんだよ。

女 …… 早く決めるって言われても…

デビル …… 正直言うけどよ、俺、どっちだっていいんだよ。交番に届けるならさっさと届ける。使  
うならさっさと使っちゃまえよ。ほんと優柔不断な奴だなお前は。

天使 ねえ、ちよっと言い過ぎよ。

デビル (天使に)お前も遠慮すんじゃないやねえよ。こんな奴にはガツンと言ってやらなきゃいけね  
んだよ!

天使 ちよっといい加減にしなさいよ…

デビル 俺、見ちゃったんだよねえ。

天使 …… 何を?

デビル …… 向こうのほうでよ、いかにも「お金持ってます」って感じのジジイがよ、地面這いつく  
ばって何か探してるんだよ。

女 マジで?

デビル ああほんとさ。もしかしたら、お前の持ってるその金、探してるのかもしれないな。

天使 …… (女に)ヤバイわよ。

女 どうヤバイの?

天使 …… もし、そのご老人がほんとにあなたの持ってるそのお金を探しているんだとしたら…

女 …… だとしたら?



天使 …… すご老人、絶対に交番に行く。  
女 …… それで？  
天使 もしも万が一、ご老人が探しているそのお金をあなたが持ってるって、警察が知ってしまったら？  
女 …… 私、どうなるの？  
天使 …… こうなるのよ。

暗転。

## 1 1 場

明転。天使・デビル、刑事となる。  
女、何が起こっているのかまだ分かっていない。

デビル (いきなり電話に出る) はいもしもしこちら「100万円事件捜査本部」のボスだ！ なに、100万円を拾った奴を見つけただと！ ちなみにどんな奴なんだ！ 高校生ぐらいの女か (このあたりで女、状況に気付き逃げる)。もちろんその女、交番に向かっているんだろ うな！ なに、100万円を持ったまま逃げているだ！ ふてぶてしい奴め。ちなみにどんな逃げ方をしているんだ！ なに、全力で逃げているのか！ すがすがしい奴め。よし分か った、お前はそのまま女を追跡しろ。我々もすぐにそっちへ向かう。報告ありがとう(電 話を切る)。ふてぶてしくもすがすがしい奴め、地方公務員の名にかけて、すがすがしく 逮捕してやる！ 行くぞ！  
天使 はい！

追跡始まる。

天使、途中から舞台に姿を見せなくなる。  
デビル、女を追い詰める。

デビル もう逃げたってムダだぞ。早くその金交番に届けるんだ！  
女 いやだ！このお金は誰にも渡さない！  
デビル いつまでもわがまま言ってんじゃねえ！  
女 うるさい！

女、手で拳銃の形を作り、デビルに向ける。

デビル おいおい、そんな物騒なもん出すんじゃねえよ。  
女 ¡このお金は私のものだ！  
デビル お前のじゃねえよ。  
女 私のお金だ！  
デビル ¡仕方ねえなあ！

デビルも手で拳銃の形を作り、女に向ける。

女 ¡あんだだっけ持ってるんじゃない。  
デビル 早く交番に行け。  
女 ¡撃つわよ。  
デビル 撃ってみろよ。  
女 ほんとに撃つわよ！  
デビル ¡撃てるもんなら撃ってみろ！

天使、遅れて合流するが、様子が若干おかしい。

デビル  
天使  
（天使に気付き）やっと来たか。お前も早くこいつのこと説得しろ。  
（拳銃を女に向けて）早く交番行きなさい。

天使の拳銃だけ、本物である。  
もちろん、用意するのは二セモノね。

デビル  
天使  
：お前、どっからそんなもん持ってきたんだよ。  
ちよっと黙ってて。

デビル  
天使  
打ち合わせと違うだろうが。  
黙ってて。

デビル  
お前やりすぎだぞ！

天使  
（デビルに拳銃を向け）いいから黙ってて！  
：（女に拳銃を向け）ほら、早く行きなさいよ。

女  
天使  
：あんたがそんなことしていいの？  
あなたに言われる筋合いはないわよ。

女  
天使  
：あんた天使でしょ！  
そうよ天使よ！あくまでも天使。別に掛けたわけじゃないわよ。まあ、掛かってもないけどね。

女  
：あんた、それ撃てるの？

天使  
撃てるわよ。もちろん、あなたがおとなしく交番に行けば話は別だけど。  
じゃあ撃ちなさいよ。私、行く気ないから。

女  
天使  
あなたのためを思ってるのよ。  
ほら、早く撃ってよ。

天使  
どうして分かってくれないのよ！

女  
天使  
早くしてよ。あんまりじらされるとこっちが疲れるんだからさ。  
：私、もう疲れたわ。：（拳銃を強く握りしめて）さよなら。：

天使、引き金を引く。  
パンッ！と、音だけ。  
もちろんニセモノね。

女 …… やっぱり、ただのモデルガンじゃない。何が「さよなら」よ。

デビル …… ビックリさせんじゃねえよ。

天使 …… (ゆっくり拳銃を下ろし、デビルに) あなたがうらやましいわ。

デビル …… あ？

天使 …… 私はいつまでたっても「交番に行きましょ、交番に行きましょ」って、それしか言えないのよ。どんなこと言ったって、結局は交番に行かせなきゃいけないんだから！

デビル お前そんなこと言うけどな、俺だってけっこう大変なんだぞ！

天使 私だってもっといろいろ言いたいなのよ！私にだって、もうちよつと自由があったっていいじゃない！…… こんなことになるなら、私もデビルになっておけばよかった！

デビル …… 心配すんな。今のお前、十分デビルだよ！

暗転。

## 1 2 場

明転。舞台上に女はいない。

デビル あいつ結局交番行ったな。大成功じゃねえか。

天使 …… ところが大成功よ。彼女が最後に言ったこと聞いてなかったの？  
デビル …… 聞いてたよ。「なんか、めんどくさくなくなったから、交番行ってくる」ってな。

天使 …… なんかスッキリしないわ。  
 デビル 「めんどくさい」って感情にはすげえ力があるんだなあ。  
 天使 どこに感心してるのよ。  
 デビル とりあえずよ、今回は結果オーライってことにしようぜ。な？  
 天使 うん。  
 デビル …… もうあんなことやるんじゃないぞ。  
 天使 …… 分かてるわよ。  
 デビル …… ほんとにビックリしたんだぞ。  
 天使 ごめんなさい。  
 デビル 危うくもうちよっとで泣くところだったんだからな！  
 天使 …… ほんと、ごめんなさい。  
 デビル …… (真剣な感じで)あんなことやって交番に行かせたってな、あとでツケがまわってくるだ  
 天使 けなんだよ。  
 …… ツケって何よ。  
 デビル …… さあね。何となく言ってみただけよ。  
 天使 …… 真剣な顔して意味深なこと言わないでよ。あなたの発言ってけっこう怖いんだから。  
 デビル …… どこが？  
 天使 …… 何となくそう思っただけよ。  
 デビル …… …… もういいや。こんなところにいたってしょうがねえしよ、もう帰ろうぜ。  
 天使 …… そうね。  
 デビル …… (帰る準備をしつつ)帰ったらプリンでも食うかな？  
 天使 …… プリン？  
 デビル …… どうした？  
 天使 …… いや、何でもない。あなた、プリン好きなのね。  
 デビル …… そうなんだよ。特にあのプッチンするやつが大好きでさあ…… これ、誰にも言うなよ。  
 天使 …… 言わないわよ。でも別にいいと思うけどね。甘い物好きの悪役、斬新でいいじゃない。

デビル だから俺にはそんな斬新さは必要ねえつつってんの…あっ！  
天使 ……どうしたの？

デビル ……忘れてた。  
天使 何を？

デビル ……あいつの名前、聞いてねえや。

天使 ……まあ、別にいいんじゃないの？確かにそう言われるとちよつと気になるけど。

デビル ……だろ？まあお前の言う通り、今となっちゃどうでもいいことだけだな。  
天使 「どうでもいい」とは言っていないでしょ……ってだから早く帰りましょうよ。

デビル ……そうだな。俺はいつでも帰れるぜ。  
天使 私だって、準備できてるわよ。じゃあ、「せーの」で帰るわよ。  
デビル おう。

天使 (同時に)せーのっ  
デビル (同時に)せーのっ

暗転。明転すると天使・デビルの姿はもうない。

女、舞台へ戻り、オーブニングの立ち位置へ。  
照明、女へのスポットライトのみになる。

女 (隠していた封筒を取り出し、客席に)誰が届けるもんですか。この100万円は、私のものよ！  
? ? 1 (声のみ)お前のじゃねえよ！

女、声に驚く。その後、全体に照明がつくが周りを見ても誰もいない。  
女、怖くなり持っていた封筒をその場に置き、走り去る。  
舞台には封筒だけが残る。

## エピソード

デビル、舞台上へ。  
舞台に残された封筒を持ち、そのまま去ろうとする。  
そのとき、天使も舞台上へ。そしてデビルの目の前へ。

デビル 何でお前がいるんだよ。

天使 (封筒を指差し) それ、どうするつもり?

デビル どうするって、これから交番に行くんだよ。

天使 ウソつかないで。

デビル 決めつけるんじゃないよ。

天使 交番に行ったってどうせ誰も気付いちやくれないわよ。それに、あなたデビルでしょ? 交番に行くなんてあなたらしくないんじゃないの?

デビル そう思うならよ、もうジャマすんな。

天使 ジャマ?

デビル これ以上俺の仕事に口挟むんじゃないよ。

天使 これが仕事?

デビル ボーナスマイみたいなもんさ。こんな大金置いていくバカがどこにいる? もったいなくて涙が出ちゃうぜ。あいつが使わないならよ、俺が有意義に使ってやるぜ。

天使 あなたこそバカ言わないで。そのお金、ここに置いていきなさい。

デビル また誰かに拾われるのを黙って見てろってか。

天使 私達にはそれしかできないじゃない。

デビル どうせろくでもねえ奴に拾われて、ろくでもねえことに使われちゃうんだよ。

天使 そうとは限らないでしょ。

デビル どうだかね。

天使 ……ろくでもないことに使われないようにするために、私達がいるんじゃないの。ほら、それ置いて帰りましょ。

デビル いやだ。

天使 こんなことしてたってどうにもならないでしょ。

デビル じゃあどうすればいいんだよ。

天使 それをこれから考えるんですよ。

デビル 考えたってどうにもならねえだろうが。

天使 それでも考えるのよ。

デビル ……もうそんな暇ねえんだよ！

デビル、天使に拳銃を向ける。

もちろん、ニセモノね。

デビル (拳銃を向けながら) ……さあどうする！

天使 ……

デビル ……お前ならこのあと、どうする？

天使 ……

デビル (拳銃を下ろし、天使に近づき) ……これから大変だな。

デビル、封筒を舞台へ置き、去る。

天使、封筒を拾う。少しの間考え、手で拳銃の形を作り、ゆっくりと客席へ向ける。

天使 ……(客席に)あなたなら、どうする？

ふと天を見上げ、手で作った拳銃を、ゆっくりと天へ向ける。



銃声。  
。

幕。  
。